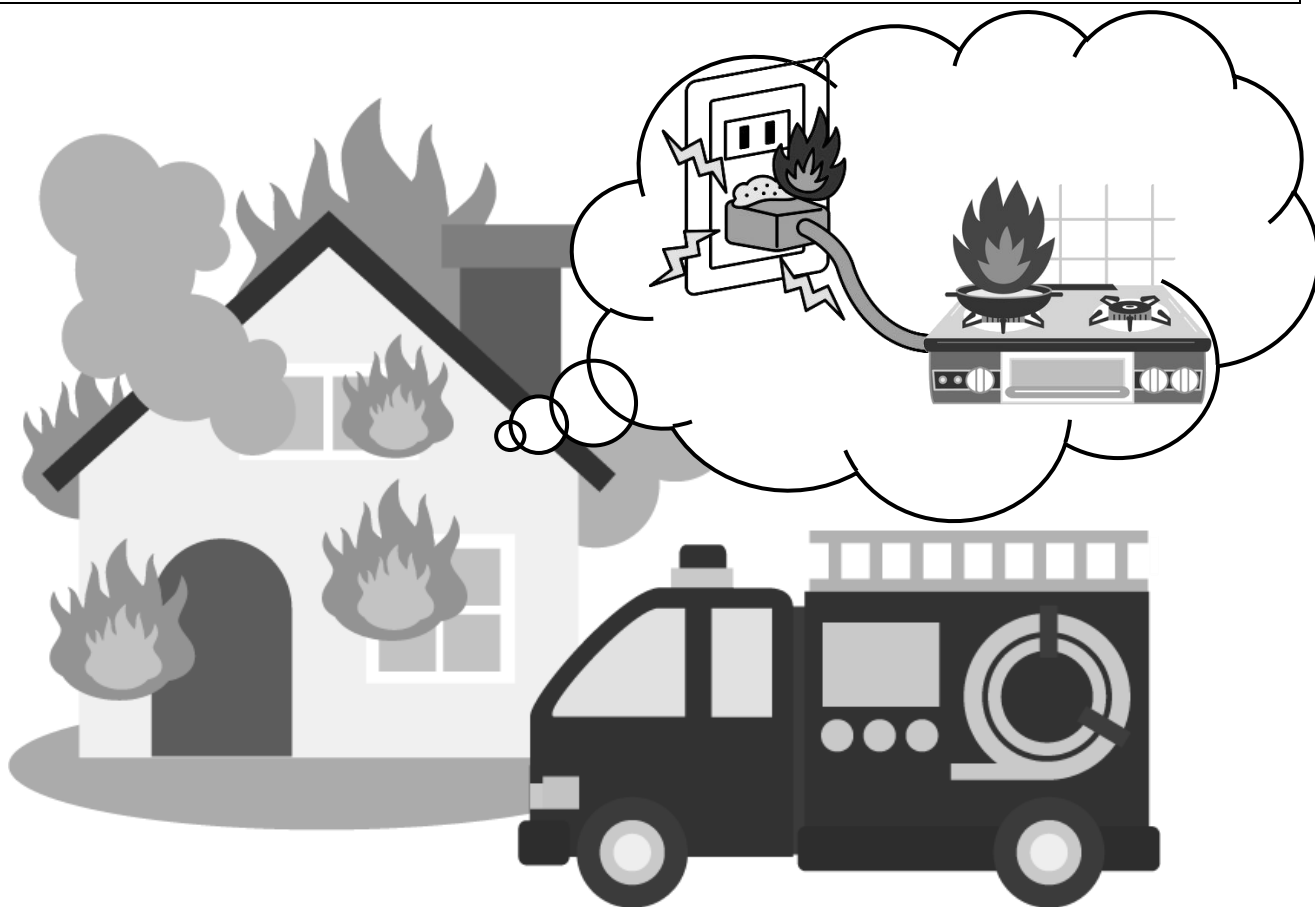


社会科学学習指導案

千葉市教育研究会社会科研究主題

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～



日時	単元名
令和4年10月13日	火事をふせぐ

〈検討のポイント〉

- 本時の学習活動や小単元の構成は、「学習したことを基に、火事から生活を守るために自分ができることを考える」という目的を達成することができるか。
- 本時で扱ったくま手チャートは、児童が「学習したことを基に、自分ができることを考える」手立てとして有効か。

社会科学学習指導案

1 小单元名 火事をふせぐ

2 小单元について

本小单元は学習指導要領第3学年の内容(3)アの(ア)「消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること」、イの(ア)「施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること」を受けて扱うものである。

本小单元では、火災から人々の生活を守る役割を担う「消防」について取り扱う。中心となって消防の働きを担っているのは消防署であるが、消防署だけで火災から人々の生活を守ることは困難である。そこで火災が起きた際には交通整理を行う警察署、けが人の処置を行う病院というように、それぞれの関係諸機関が役割を分担し、対応に当たっている。また火災は自然災害とは異なり、発生を未然に防ぐことができる。そのために消防署だけでなく、地域住民により組織された消防団や自治会が、火災の未然防止に向けた取組を行うことが重要となる。それは、その地域に住む人々が、よりその地域の課題や人々の願いに沿った活動を行えるからである。このように関係諸機関や地域の人々は、それぞれができる役割を果たし、連携しながら、人々の安全な暮らしを守ろうとしている。しかし千葉市の火災の原因を見てみると、「コンロ」や「電気機器」といった個人の家庭によるものが多いことが分かる。住民の一人一人が消防に対する意識を高めていかなければ、火災の未然防止は成り立たない。

本学級は第3学年より始まった社会科の学習に意欲的に取り組む児童が多い。身の回りの社会的事象に対して関心もあり、多くの疑問や予想をもって学習に臨んでいる。話し合い活動では、気付いたことや調べたことを、積極的に友達に話すことができる。一方で考えを分類し、文章に表現することに苦手意識を抱く児童も多い。また本校の学区は、地域の消防活動を牽引する消防団が存在しない。地域では自主防災組織による防災訓練や、納涼祭や敬老会といった地域の関係づくりを通して防災に取り組んでいるが、どのような取組がされているか、なぜそれが大切なのか知っている児童は少ない。

そこで本小单元では、火災から生活の安全を守るために、地域に住む一人一人が自発的に行動することが大切であると、児童が考えるきっかけとなるようにしていきたい。そのために、小单元の構成を関係諸機関と地域の人々の働きを理解する前半と、学んだことを生かして自分ができることを考えていく後半に分けて展開する。自分たちの生活を守るために、自分ができることを考え、実践していくことで「安全な生活を守るためには、自分ができることに進んで取り組むことが大切である。」と児童が気付くことができる。さらに、火事を防ぐために地域に住む一人一人が行動することの大切さを話し合い、児童が「自分が火災を予防することが地域社会の安全につながる」と考えられるようにしていきたい。そうすることで児童は、「自分たちは地域社会の一員として消防に携わることができる。」という自覚をもつことができるであろう。児童が自分たちの生活を火災から守るために、関係諸機関と地域の人々が相互に連携して取り組んでいることを理解し、自分たちも地域社会の消防の担い手としてできることを考え、行動していこうとする態度を身に付けられるようにしていきたい。

3 児童の実態（男子17名 女子18名 計35名） 8月29日実施

（1）消防の働きについて

① 火事について、知っていることは何ですか。

火事について	火事の原因について	火事が起きたときの対応について	働く人について
・怖いもの。 (14名) ・煙がたくさん出る。(3名) ・煙を吸わない。 (3名) ・一酸化炭素中毒が怖い。 (1名) ・木造家屋は燃えやすい。 (1名)	・火が原因。(2名) ・コンロの火の消し忘れで起こることが多い。(2名)	・消火器を使う。(13名) ・逃げるときは姿勢を低くする。(1名) ・体に火が点いたら寝転がって火を消す。(1名)	・消防車 (7名) ・消防士 (2名) ・警察 (1名) ・緊急車両がたくさん来る。(1名)

② 自分たちの地域にある、消防に関係するものを見たことはありますか。それは何ですか。

・はい (13名) ・いいえ (14名) ・分からない (8名)	〈見たことがあるもの〉 ・消防車 (8名) ・救急車 (2名) ・消火器 (7名) ・消火栓 (1名)
--	--

③ 火事の危険から私たちの生活を守るために、誰が何をしていますか。

また、その人たちはどのような思いで働いてくれていると思いますか。

誰が	何を	どのような思いで
・消防士	・火事現場で消火活動 (23名) ・火事現場で救助活動 (4名) ・訓練や点検 (5名) ・パトロール (2名)	・みんなを守ろう。(8名) ・みんなを助きたい。(6名) ・みんなが安全に暮らせるように。(2名) ・頑張って火を消そう。(1名)
・お医者さん	・けがをした人を助ける。(1名)	・みんなの笑顔が見たい。
・警察官	・現場の交通規制をする。(1名)	・人々を巻き込まないように。
・お母さん	・火を細めに消す。(1名)	・家族を火事から守ろう。
・分からない (5名)		

④ 火事の危険から自分たちの生活を守るために、自分がしていることはありますか。

それはどんなことですか。

・はい (10名) ・いいえ (25名)	〈していること〉 ・火を点けっ放しにしない。(3名) ・1人で火を使わない。(1名) ・火から目を離さない。(1名) ・こたつを点けっ放しにしない。(1名) ・消火のチェックをする。(2名) ・火の近くに行かない。(1名) ・火を使うときは気を付ける。(1名)
---	--

⑤ あなたの家にある物は何ですか。

・火が出るコンロ (23名) ・たこ足のコンセント (30名) ・たばこ (12名)	・火が出るストーブ (4名) ・物置きや倉庫 (16名) ・消火器 (2名)	・電気ストーブ (20名) ・庭 (16名)
--	--	---

(2) 社会科の学習について

① 社会科の学習は好きですか。その理由はなぜですか。

とても好き (10 名)	まあまあ好き (13 名)	どちらでもない (5 名)	好きではない (7 名)
・自分の身近にあることが知れるから。(4 名) ・知りたいことや興味のあることを知れるから。(2 名) ・楽しいから。(2 名) ・調べ学習や、見学が楽しいから。(2 名) ・地図を見るのが好きだから。(1 名) ・知っていることがもっと詳しくなるから。(1 名) ・自分の意見をしっかりとつことができるから。(1 名) ・とても大切な学習だと思うから。(1 名)			・自分の考えを表すのが苦手だから。(3 名) ・地図を読むのが苦手だから。(2 名) ・調べ学習が苦手だから。(1 名) ・社会科より好きな教科があるから。(2 名)

② 資料（地図やグラフ、動画など）から、調べたいことを探すことはできますか。

よくできる (9 名)	どちらかと言うとできる (8 名)	どちらかと言うと苦手 (9 名)	苦手 (9 名)
-------------	-------------------	------------------	----------

③ 調べて分かったことを、自分の言葉でまとめることはできますか。

よくできる (2 名)	どちらかと言うとできる (11 名)	どちらかと言うと苦手 (12 名)	苦手 (10 名)
-------------	--------------------	-------------------	-----------

④ 自分が考えたことを、友達に伝えることはできますか。

よくできる (6 名)	どちらかと言うとできる (9 名)	どちらかと言うと苦手 (11 名)	苦手 (9 名)
-------------	-------------------	-------------------	----------

⑤ 社会科で学んだことは、自分の生活に生かされていると思いますか。

とてもそう思う (11 名)	どちらかと言うとそう思う (11 名)	どちらかと言うとそう思わない (10 名)	そう思わない (3 名)
----------------	---------------------	-----------------------	--------------

<考察>

(1) ①の回答から、火事が恐ろしいものであることや、火事から避難する方法を理解している児童が多いことが分かる。②では、児童が普段どれほど消防施設を意識しているか調査したが、過半数の児童が、消防施設が身の回りにあることに気付いていなかったり、何が消防施設なのか分かっていなかったりすることが読み取れた。また①から③の回答から、火事が起こると消防士が出動するということをほとんどの児童が理解していることが分かる。しかしそれ以外の機関を挙げる児童はそれほど多くない。地域の人々や消防団を挙げる児童はいなかった。④では、過半数の児童が火事を防ぐための行動はとっていないことが分かった。「考えたことがなかった」「何をすればよいのか分からない」といった意見も多かった。

(2) ①の回答からは、児童が新しいことを知ったり、自分が知りたいことを調べたりすることに社会科の楽しさを見いだしていると分かる。しかし②③④の回答より、資料の読み取りや自分の考えを言葉にすることに苦手意識をもつ児童が多いことが分かる。またこれらは、3つの質問全てに同じ回答をする児童が多い傾向にあった。⑤では、社会科の学習を自分の学習にどのように生かせばよいかが分からない児童もいた。

本小単元では、「地域社会の一員として、安全な生活を守るために自分ができることを進んで行おうとする態度」を養うことを大切にしていきたい。安全な生活を守るために、関係諸機関、地域、自分がそれぞれできることを行うことが大切であると児童が考えられるように、児童の知識があまり無い、地域の人々の働きは大切に扱っていく。児童の生活する地域には消防団が無く、そのため児童が知っている地域の活動も少ないが、「人々が安全に生活できるように」という思いを抱いているのは地域の人々も同じである。消防団や地域の方への見学、取材を通して、自分たちの生活は消防に携わる人々の「人々の安全な生活を守りたい」という思いによって支えられているのだと児童が気付けるようにしていきたい。

調べ学習の際は、どのような資料で調査を進めればよいか、その資料で何を調べることができるかをよく話し合いながら学習を進めていく。自分の考えを言葉で表現することができるように、各授業でまとめの時間を丁寧に扱うとともに、思考ツールを活用したり、話し合い活動を多く取り入れたりして、児童が自分の考えを明確に表すための手立てを工夫していきたい。

「いかす」学習過程では、火事を防ぐために自分ができることを考えていく。これまであまり実践的な活動を行っていなかったり、何をすべきか分からないと考えていたりする児童が多いという実態を踏まえ、どのような取組をすれば火事を防ぐことができるかを児童が考えられるようにしていきたい。その手掛かりとして、これまで学んできたことや資料から読み取れる情報を活用する。さらに話し合い活動を通して、より根拠を明確にし、自分たちの生活に即した具体的な実践を児童が考えられるようにしていきたい。

4 知識の構造図



5 小単元の目標

- 火事から地域の安全を守る働きについて、資料などから必要な情報を集めたり、調べたことを地図や文などにまとめたりすることを通して、消防署による緊急時の対応や関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
- 連携・協力している関係機関の働きを比較・分類して考え、それを表現することを通して、自分の安全を守るためにできることを考え、地域社会の一員として消防に携わっていこうとする態度を養う。

6 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 施設・設備などの配置、消防署による緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	① 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。	① 地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し解決しようとしている。
② 調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。	② 連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、選択・判断したりして、適切に表現している。	② 学習したことを生かし、自分たちの安全を守るためにできることを考え、地域社会の一員として消防に携わっていこうとしている。

7 小単元の指導計画（11 時間扱い）

過程	時間	主な学習活動と内容
つかむ	1	○ 学校の消防施設を点検している人がいることを知る。 ・ 火災報知器や消火器の点検をしているようだ。 ・ 火災報知器は自分の教室にあるが、他の教室にもあるのかな。 ・ 火事を防ぐために働いている人がいる。 ・ 火事を防ぐために働いているのは消防士だけではないのだろうか。 ○ 火事現場の様子を知り、疑問から学習問題を作る。 ・ 火事は、どのように消されているのだろうか。 ・ 消防士の他に、警察や救急隊員などがいるようだが、他にどのような人が働い

調 べ る		ているのだろう。 ・ 消防車は火事現場に、通報から 10 分ほどで到着するようだが、様々な仕事の人がすばやく現場に集まるにはどうしているのだろう。 ・ 消火活動には大量の水が必要そうだが、どこから用意しているのだろう。 ・ 消防署の人は火を消す以外はどのような仕事をしているのだろう。 ・ 消防団とは何をしている人なのだろう。消防士とは違うのかな。 学習問題 火事をふせぐために、だれが、どのようなはたらきをしているのだろう
	2	○ 学習問題に対する予想を立てる。 ・ 火事の通報をする 119 番に何か工夫があるのではないか。 ・ 消防車が早く現場にたどり着ける工夫があるのではないか。 ・ 消防士は火を消すために、学校のプールの水や道路の消火栓を使っているのではないか。 ・ 消防団も、消防士と同じような働きをしているのではないか。 ○ 予想や、前時で挙げた疑問をもとに学習計画を立てる。 ・ 自分の学校やまちには、どのような火事を防ぐための設備があるか調べる。 ・ 様々な仕事の人たちが、どのように火事現場に集まるか調べる。 ・ 火事を防ぐために、消防署の人がどのような工夫や努力をしているか調べる。 ・ 消防団とは何をしている人なのか、火事を防ぐためにどのような工夫や努力をしているのか調べる。
	3	○ 学校にある消防施設を調べる。 ・ 学校の至るところに、消火器や消火栓、感知器が設置されている。 ・ 防火扉は、火がそれ以上燃え広がるのを防ぐためにある。 ・ 火事から自分たちを守るために、学校には消防施設が満遍なく設置されている。
	4	○ 自分の地域にある消防施設を調べる。 ・ 地域には至るところに消火栓や防火水槽が設置されており、火事が起きたときには、そこから水を出すことができる。 ・ 消火器は多く設置されている場所と、そうでない場所があった。 ・ 道が狭く、消火栓もあまり設置されていない場所もあった。 ・ 火事から地域の人々の生活を守るために、消防施設がある。
	5	○ 119 番通報の仕組みを調べる。 ・ 119 番は、セーフティーちば内のちば消防共同指令センターにつながり、現場に一番近い消防署から、消防車や救急車を出動させる。 ・ 必要に応じて、警察署、水道局、ガスや電力会社、病院などの機関にも連絡を取って、消火活動を行っている。 ・ 119 番通報をするときは、落ち着いて、場所や火事の様子を伝える。 ・ 関係機関は、火事から人々の生活を守るために、それぞれが連携して活動できるようにしている。

調 べ る	6	○ 消防署の人の工夫や努力について調べる。 ・ いつでも出動できるように、勤務時間を工夫したり、服を着たまま睡眠を取ったりしている。 ・ 迅速に消火活動が行えるように、毎日訓練や点検を行っている。 ・ 消防用自動車には、救助に必要な道具を多く乗せた救助工作車や、長いはしごを乗せたはしご付き消防自動車があり、役割分担して活動している。 ・ 火事が起きた後だけでなく、火災の予防に向けた取組もしている。 ・ 消防署の方は、火事から人々の生活を守るために、迅速な消火活動や火災の予防に努めている。
	7	○ 消防団とは何をしている人たちなのか調べる。 ・ 消防団とは地域の人々で結成された消防組織であり、消防士と協力して消火活動に取り組めるように、訓練などを行っている。 ・ 地域の人たちも消防士と同じように、火事を防ぐための取組も行っている。 ・ 千葉市の火事のほとんどは、家庭が原因のものなので、一人一人が予防に努めることが大切である。 ・ 消防団などの地域の人々は、火事から人々の生活を守るために、迅速な消火活動や火災の予防に努めている。 ・ 消防団が中心になって、地域の消防に向けた取組も行われているが、住んでいる地域には消防団は無い。
ま と め る	8	○ 学習問題について調べてきたことを、整理してまとめる。 ・ 火事の予防と迅速な消火活動のための取組の両方が行われている。 ・ 消防署や警察、水道局など、多くの関係機関が、ちば消防共同指令センターを中心に連携している。 ・ 消防署の人は、火事に迅速に対応できるように、出勤時間や睡眠の取り方を工夫したり、訓練したりしている。 ・ 消防署の人は、消火活動だけでなく、呼びかけやポスターなどで火事の防止にも努めている。 ・ 関係機関だけでなく、地域の人々も火事の予防や消火活動に力を尽くしている。 ・ 消防署、関係機関、地域が協力しているからこそ、人々の生活を火事から守ることができる。 ・ 消防に携わる人々は皆、「人々の生活を火事から守りたい」という思いをもって活動してくれている。 まとめ 人々の生活を火事から守るために、関係するさまざまな仕事の人や地域の人が、協力して火事の予防や消火活動をしている。 ○ 地域の消防の状況について話し合う。 ・ 消防署ができることと、警察署ができることは違うから、役割分担している。 ・ 地域のことは、その地域に住んでいる消防団の人の方がよく知っているし、火事を防ぐ取組もしやすい。 ・ 消防団が無い地域は、どのように消防に取り組めばよいのだろう。

		・ 消防団が無くても、地域の人が消防に取り組んでいるのではないだろうか。 ・ 自分たちが代わりに火事を防ぐために取り組むことができるかもしれない。
いかす	9	○ 地域の消防に対する取組の状況や、それについての自治会長の思いを調べる。 ・ この地域にも昔は消防団があったが、消防施設の充実や消防団員の減少が原因で解散した。 ・ 火事だけに限定せず、震災や風水害も視野に入れた防災という広い意味での避難訓練を行っている。 ・ 災害が起きた時、地域で声をかけ、助け合えるように、地域の関係づくりも大切にしている。 ・ 自治会長は、「公共機関や地域も人々の生活を守るために力を尽くすので、自分ができることを考え、行動して欲しい。」「子供たちも、地域の一員である。地域のつながりを大切にして、地域のためにできることを考えてみてほしい。」と考えている。 ○ 地域の人々が、消防のために果たしている役割を話し合う。 ・ 地域の人間関係づくりは、その地域に住んでいる人だからこそできることだ。 ・ 自分たちだからこそできることは無いのだろうか。 ・ 自分の家で火事が起きないようにすることは、自分たちにしかできないのではないだろうか。 ・ 学校の皆に消防の大切さを伝えれば、地域の安全を守ることにつながるかもしれない。
	10 (本時)	○ 家の中のどこに、火事の危険があるか話し合う。 ・ テレビの周りにはコンセントがたくさんあって危険だと思う。 ・ コンロやストーブなど、火がある所は危ない。 ・ 家の周りにごみや物陰があると、放火犯に狙われる可能性がある。 ○ 火事を予防するために、家で行うとよい取組を考える。 ・ たこ足配線を使いすぎると、熱が出て火事の原因になるので、コンセントをつなぎすぎない。 ・ コンロからの火事が多いので、火を使って料理をするときは火から目を離さない。 ・ 初期消火が大切だと消防団の人が言っていたので、自分の家にも消火器を置く。 ・ 燃えやすいものやごみがあると放火犯に狙われるから、家の周りに物を置かない。 ○ 自分が実践したい取組を考える。 ・ コンセントからの火事はあっという間に火が大きくなって怖かった。自分もコンセントをよく使うので、毎回抜くようにしよう。 ・ 千葉市の出火原因にはコンロが多いので、台所に消火器を置こう。 ・ 自分の家の庭には草木がたくさんあるが、伸ばしたままだと物陰ができて火も点きやすい。草抜きをするようにしたい。

	○ 地域社会の一員として、地域の安全を守るためにできることを話し合う。 ・ 自分の家から火事が起きないようにすることは、地域の安全につながる。 ・ 皆が火事に気を付けてくれたら、地域はとても安全になるのではないだろうか。 ・ 他の人に、自分たちが考えた取組を伝えたいな。 ・ ポスターを描いて全校に貼るのはどうだろう。 ○ 自分が学習したことや、考えた取組をポスターにまとめる。 ・ コンセント回りを整頓する大切さが伝わるように、電気火災の怖さも載せよう。 ・ 放火犯が狙いやすい場所も入れて、庭を掃除する大切さを伝えよう。 ・ 学校内だけでなく、地域にも貼り出せるといいな。
--	---

8 市教研社会科研究主題解明のための方策

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～

＜本年度主題解明のための方策＞

研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫
 研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫
 研究内容 3 指導と評価の一体化

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫

○ 地域の実態を踏まえ、一人一人の消防の意識を高める「いかす」学習過程の設定

本小単元では、地域社会の一員として、安全な生活を守るために自分ができることを進んで行おうとする態度を、児童が身に付けられるようにしていきたい。そこで児童が地域の実態を理解した上で、小単元で得た知識を生かし、自分たちができることを考える「いかす」学習過程を設定する。

本校が在籍する地域は、消防団の基地が無く、消防の取組は自治会が進めている。地域の取組を詳しく調べるきっかけとして、「地域の消防活動を支える消防団が無い。」という実情を提示する。それにより児童は、「地域の人々はどのように安全な生活を守っているのだろうか。」という新たな疑問をもつことができると考える。地域の人々は防災訓練や、人と人との関係づくりなど、自分たちができる取組を行っている。地域の人々ができる役割を果たし、安全な生活を守ろうとしている人々の思いに触れることで、児童も「地域の一員として、自分たちができることをして、安全な生活を守っていこう。」と考えるだろう。そこから「自分ができる、火事を防ぐ取組を考える」学習過程につなげていく。

さらに地域の安全な生活を守るためには、地域住民の一人一人が自分の生活を守るためにできることを考え、行動していくことが大切である。そこで、自分たちが考えた消防の取組を身の回りの人に伝える活動を行う。その際は、地域の人々の思いを振り返ったり、「自分の家庭で火事を防ぐだけで地域は安全か。」と考えたりすることを通して、「地域の安全のために自分たちができることをしたい。」という思いを、児童がもてるようにしていく。

以上の手立てから、「火事から安全な生活を守るために、自分たちができることを進んで行っていこう。」という意識を育み、自分ができることを通して地域の消防に携わっていこうとする実

践的態度を児童が身に付けられるようにしていきたい。

研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫

○ これまでに学んできたことを生かして自分の考えを表現する思考ツールの活用

自分ができる実践を考える「いかす」学習過程では、くま手チャートを活用する。今回はくま手の柄にあたる部分に自分が行いたい取組、くま手の歯にあたる場所にその取組を行いたい理由を書き込む。そうすることで、これまでの学びや友達の意見、自分の家庭の実情などに整理しながら、その取組を行いたい理由や利点を児童が考えることができる。さらに、理由を複数に分けて記入する形式をとることで、その取組を実行することのよさが1つではなく、様々な側面にあることに児童が気付くきっかけにもなると考える。

「まとめる」学習過程においても、コンセプトマップにXチャートを応用した思考ツールを活用する。消防に携わる人々は、消防署などの関係諸機関、消防団などの地域の人々という2つに分けることができる。そしていずれも「火事が起こる前」と「火事が起きたとき」に対応する活動を行っている。Xチャートを活用することで、分類・整理しながら消防に携わる人々の働きを考えることができる。さらに、コンセプトマップは社会的事象を関連付けて考えるのに有効な思考ツールである。例えば、消防士の「服を着たまま仮眠を取る。」「毎日消防用自動車を点検する。」「119番はちば消防共同指令センターにつながる。」といったものは全て迅速に火災現場に到着するための工夫である。コンセプトマップを用いて社会的事象を整理し、複数の社会的事象を関連付けて考えられるようにしていきたい。

これらの思考ツールを活用し、児童が調べたことや考えたことなどを整理し、それを分かりやすく表現する力を身に付けられるようにしていきたい。

9 本時の指導（10／11）

（1） 目標

- 火事を防ぐために自分自身ができる取組を、学習したことや資料を基に考え、表現する。

（思考力、判断力、表現力等）

- 火事を防ぐために自分自身ができる取組を、学習したことや資料を基に考えようとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 家のどこに火事の危険があるか話し合い、本時の学習内容を確認する。 ・テレビの周りでコンセントをつなぎすぎていて危ない。 ・コンロやストーブなど、火がある所は危険である。 ・火を使わない電気ストーブも、使い方を間違えると危険だ。 ・家の周りにごみや燃えやすい物があり危ない。	○ 前時までの内容をまとめて掲示し、調べてきたことが振り返られるようにする。 ○ 黒板に屋内のイラストを掲示し、危険箇所に印を付けていくことで、家のどこが危険かを児童が視覚的に理解できるようにする。 ○ 千葉市の出火原因の資料を提示し、家のどこに火事の原	前時までの内容の掲示物 千葉市の出火原因（千葉市消防局 火災統計より）

	・火事を防ぐために自分ができることは、何だろう。 ② 火事をふせぐために、自分の家でできることを考えよう。	因があるか、児童が考える手がかりを与える。	
17	2 火事を防ぐために、自分ができる取組とその理由を考える。 ・たこ足配線を使いすぎると、熱が出て火事の原因になる。コンセントはこまめに抜く。 ・家からの火事はコンロからが多い。火を使って料理をするときは火から離れない。 ・初期消火が大切だと消防団の人が言っていた。自分の家にも消火器を置こう。 ・家の周りに燃えやすいものがあると、放火犯に狙われる可能性が高い。雑草も燃えやすいから、庭の草抜きをする。	○ 何が電気火災や放火の原因か児童に問うことで、これまでの学習で取り扱ってきた資料を取組を考える参考になると児童が気付けるようにする。 ○ ワークシートにくま手チャートを用いることで、児童がこれまでの学びや友達の意見、家庭の実態を根拠にして、取組を考えられるようにする。 ○ 自分で取組を考えるのが困難な児童には、特に危険だと感じる場所を選び、その危険に一番関係ある資料は何かを考えるように声をかける。 ◆ 火事を防ぐために自分自身ができる取組を、学習したことや資料を基に考え、表現している。(ワークシート) <思考、判断、表現>	・消火器の使用期限の写真 ・放火犯が狙う場所(千葉市HPより作成) ・おそろしい電気火災(千葉市HPより作成)
15	3 考えた取組を全体で話し合う。 ・家からの出火原因にコンロが多いから、料理中は気を付けなければならないんだな。 ・消火器を置くことも大切だけど、使用期限をチェックする必要もあったな。 ・放火を防ぐのに、庭の草抜きを行うのは思い付かなかったな。	○ 友達の考えを参考にできるように、参考にしたい取組や、取り入れたい資料の情報を自分のワークシートに書き入れてよいことを伝える。	
8	4 本時の学習の振り返りを行う。 ・コンセントからの火事はあっという間に火が大きくなって怖かった。自分もコンセントをよく使うので、毎回抜くようにしよう。 ・家に消火器を置こうと思ったけど、使用期	○ 児童が自分の考えをより広げられるように、納得した友達の考えや、家庭の実態を踏まえて振り返りを書いている児童を全体で共有する。	

	限にも気を付けなければならないという友達 達の考えに納得できた。 ・庭の草抜きはアパートではできない。自分の家に合った取組を考えることも大切だ。 ・今日決めたことを忘れずに行うことで、自分も地域の安全を守っていきたい。	◆ 火事を防ぐために自分自身ができる取組を、これまでの学習や資料を基に考えようとしている。(ワークシート) <主体的に学習に取り組む態度>	
--	---	--	--

10 板書計画

① 火事を予防するために、自分の家でできることを考えよう。

○ 家のどんな所で、火事は起きるだろう。

屋内のイラスト

○ 考えた取組み、理由

<放火>

- ・庭のそうじ、草ぬき
→もえやすい物があるとねられやすい
- ・げんかんの電気、パトロール
→家のまわりが暗いとねられやすい

<電気火さい>

- ・こまめにそうじ
→コンセントのほこり
- ・つなげすぎない、使い終わったらぬく
- ・→つなげすぎ、たこ足配線

<ふり返り>

- ・消火器を台所におく。使用きげんにも気を付ける。
- ・自分の家は草がたくさん生えているから、放火はんにねられないように草ぬきをする。

←◎自分の家に合っている。自分ができること。

<コンロ>

- ・火から目をはなさない、子どもだけで火を使わない
- ・消火器を台所におく
→コンロからの出火が多い

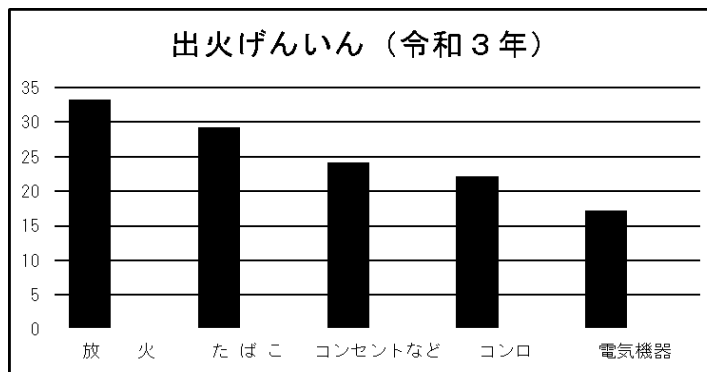
<その他>

- ・消火器を家におく。
→初期消火が大切
- ★ 子どもはしない!
- ★ 使用きげんのチェック

11 資料

【 ① 消火器の使用期限の写真 】 (3 / 11 より)

【 ② 千葉市 令和3年の出火原因 (千葉市消防局 火災統計) 】 (7 / 11 より)



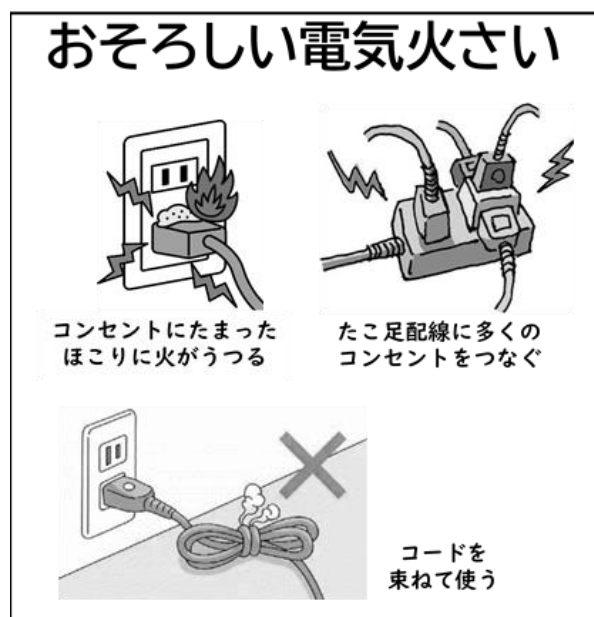
【 ③ 放火犯が狙う場所（千葉県HPより作成） 】

（7 / 1 1 より）



【 ④ おそろしい電気火さい（千葉県HPより作成） 】

（7 / 1 1 より）



名 前 ()

め

◎ 火事をふせぐために、自分ができる取り組みを考えよう。

行いたい取り組み

理由①

理由②

理由③

理由④

友だちのからのなるほど!

⑤ 友だちのからのなるほど!

まねしたい
友だちの考えが
あったら
書きましょう

わたしの 消防せんげん!!

ふり返し